

オーセンティックな英語音声教材の共有化とシステムの検討

茅野 潤一郎*1

英語教育ではオーセンティックな英語を学習者に与えるべきである、という主張が繰り返されてきた。実際、近年の情報通信技術の発展に伴い、国内にいながらにして「本物」の英語に触れられる機会は増えたものの、実際に授業中に活用するには、まだ多くの問題点が残されている。

本研究では、まず上記の問題点を整理した上で、その解決策としての教材共有化システムを提案し、現在開発中のシステムを紹介する。

<キーワード>教育支援システム、オーセンティックインプット、CMS、Joomla!

1. はじめに

近年、英語教育ではオーラルコミュニケーションの重要性が増しており、特に最近ではリスニング関連の教材が多く開発されるようになってきている。その一方、DVDやインターネットの普及に伴い、英語学習者を意図したものではない、オーセンティックな英語が容易に入手可能になった。

外国語教育においてオーセンティックという語を用いる場合、言語そのものについて議論する場合と、言語活動について指す場合がある。本研究では前者について扱い、「英語学習用を意図して話されたものではなく、実生活上の目的のために母語話者向けに話された音声素材」を「オーセンティックインプット」と呼ぶ。

2. 必要性和現状の問題点

外国語教育におけるオーセンティックインプットの必要性はこれまで数多くの文献で指摘されてきたものの、実際には多くの問題があり、学校現場で用いるのは容易ではない。(この点については、茅野・大湊(2008)で詳しく論じられており、ここではその一部を紹介する。)

オーセンティックなインプットの必要性として、以下の3点を挙げる事ができる。

- (1) 教室外で使用される英語に即したものを聞かせるべきである。
- (2) 学習者の動機づけに有効である。
- (3) オーセンティックなインプットは聞き手の理解を促進する。

一方、オーセンティックインプットを用いる際の問題点は以下の通りである。

- (1) 教材の入手が困難である
英語の授業で用いられている音声教材では、

通常、ネイティブスピーカーが与えられた原稿を読み上げたものを録音しており、そのため、Topic-comment型の発話や、false start、省略や言い換え、fillerの使用といった話し言葉特有の現象が含まれず、オーセンティックなものあまり見られない。

最近では、DVDが普及し、また、インターネット上ではYoutubeなどの動画サイトを通して、オーセンティックインプットをより容易に入手できるようになったが、実際に授業で使おうとする場合、学習者に合ったレベルや、授業内容に合う内容を見つけるのは困難である。

- (2) 教材を自作する時間的余裕がない

一部の熱心な教師の中には自ら教材を自作し、録音・録画、編集作業をおこなう者もいるが、それには多くの時間と労力が必要であり、また、せっかく作成した教材を他の教員も活用できる体制が整備されておらず、「宝の持ち腐れ」となる可能性もある。

- (3) ALTの数が決して十分ではない。

ALTは生徒にとって最も容易にオーセンティックインプットに触れられる機会を提供するが、その接触量は十分ではない。現実には、全ての学校にALTが行き渡っておらず、学期に1度しかALTの英語に触れられないという場合もある。

3 必要とされる共有システム

前章で挙げた問題点を解決するには、以下の特徴を含むシステムを構築する必要がある。

- (1) オーセンティックなインプットを多く収集し、インターネット上に公開する。
サーバーに教材を蓄積するには、著作権や肖像

*1 CHINO, Junichiro: 県立新潟女子短期大学, chino@elle.nicol.ac.jp

像権の問題を解決する必要がある。このため、自作の教材を多く集め、音声を収録するネイティブスピーカーなどからは事前に了解を得る。

(2) キーワードを追加し、検索機能を持たせる。

各音声ファイルには、検索用のタグを付加する。また、サイト上には検索機能を持たせ、教師が必要とするキーワードを入力することで容易に目的のファイルが入手できるようにする。また、音声ファイルと共に、英語のスク립トを載せ、発話された単語やフレーズを検索することを可能にする。

(3) 双方向型のコミュニティサイトを目指す。

サイト管理者のみが教材をアップロードするだけでは公開ファイル数は充実しない。また、音声ファイルの難易度や、ファイルをダウンロードして使用したコメントを載せ、次に利用するユーザの判断材料を増やすためにも、双方向型のサイトを構築する必要がある。

ユーザ自身も必要に応じ、例えば、ダウンロードした音声ファイルをもとに作成したプリントをアップロードし、他者と共有することを可能にする。

(4) 普通教室でも利用可能な配布形態を考慮する。

AV教室やコンピュータールームより、普通教室で英語授業が行われることが多い。そのため、共有サイトからダウンロードした音声ファイルをiPod等の携帯デジタルプレーヤーを経由し、普通教室で利用可能なCDプレーヤーや移動式テレビなどで提示するといった利用が可能システムを構築する必要がある。

4 採用するCMSの検討

予算面を考慮すると、当面はオープンソースのコンテンツマネジメントシステム(CMS)を基盤とし、共有システムを構築することを検討している。開発初期段階では、多様なCMSのうち、XOOPSとJoomla!に的を絞って検討した。XOOPSは日本語環境が充実しているという点で優れているが、本研究のニーズを満たすモジュールは見つからなかった。一方で、Joomla!は日本ではシェアは低いものの、世界中で広く使用されており、音声や動画機能に特化したコンポーネントが存在する。そのため、本研究では現在のところ、Joomla!をベースにサイト構築を進めている(図参照)。音声・動画共有用の



コンポーネントにはSeyret Video Componentを採用し、音声ファイルに付随するハンドアウトやスク립ト原稿の共有用としてDOCman、掲示板機能としてFireboardを試用している。特にSeyretはYouTubeのように直感的な操作が可能であり、また、ファイルのアップロードやダウンロードの許可・不許可について、ユーザカテゴリごとの設定ができるという利点がある。

5 今後の展望と問題点

現在の研究チームでは、入手可能な既成の拡張機能を組み込むという段階に留まっており、いずれ上記のコンポーネントを効果的に連動させる必要がある。そのため、ソースコードの改変に詳しい協力者を募りたい。また、多様なオーセンティックインプットを共有するために、まずは関心のある大学生に参加を呼びかけ、彼ら自身の英語力向上を兼ね、音声を収集してもらうよう、体制を整えているところである。この共有システムの構築が完成し、公開した後、中学・高校などの英語教員に試用してもらい、システムの効率性や、授業での効果について検証したい。

参考文献

- 茅野潤一郎・大湊佳宏(2008)「リスニング教材共有システムの開発：オーセンティックな活動を増やすための基盤構築」『コミュニカティブティーチング研究会紀要』13, (印刷中)。

本研究は科研費(20520542)の助成を受けたものである。